

新潟県小学校教育研究会
会 報

全
会
員
配
布

編集発行：新潟県小学校教育研究会事務局
〒950-0908 新潟市幸西3-3-1(新潟会館2階)
電 話 新潟(025)290-2231
F A X 新潟(025)245-6060
<http://www.niigata-inet.or.jp/k-shoken/>
E-mail k-shoken@niigata-inet.or.jp
印 刷：(株)第一印刷所
電 話 新潟(025)285-7161



組織を生かした学力向上の取組を

新潟県小学校教育研究会

会 長 樋 浦 晃 治

ここ一・二年，県内各学校での学力向上の取組には目を見張るものがあります。校長のリーダーシップの下，「にいがた学びはつらつプラン」の精神を生かし，一人一人の児童を大切にしたい積極的な指導に努めた表れであろうと思っています。

学力向上を図るためには，その学年で身に付けるべき内容をすべての児童に確実に定着させ，次の学年に送ることを徹底していかなければなりません。「履修から習得」の考えの徹底が基本です。それと合わせ，総合的な学習の時間の学びにおいて，児童一人一人が自ら課題を持ち，自ら学び自ら考える力を十分に育成していかなければなりません。そのための授業改善を学校課題として取り組んでおられる学校が多くなってきています。

その授業改善の方向は，きめ細かな指導をどう進めるかであり，授業実践においては，「一人一人がとらえた課題にじっくりと取り組ませる授業」，「体験的な問題解決的な学習を積極的に取り入れ，課題を解決する力を身に付けさせる授業」に力点が置かれています。各学校では，柔軟な時間割の編成や多様な指導体制，指導方法の工夫に取り組み，実践を進めています。

規制緩和という世の中の大きな流れの中で，各学校独自の取組が重視されるようになってきた結果であろうと考えます。これらの取組は，ゆとりの中で生まれた時間をどのように活用し，少人数の学級編制の進む中，加配等の教員も踏まえ児童一人一人の理解や習熟度にどのように応じていったらよいのかという学校全体の組織を生かした取組と言えましょう。

このような学力向上の取組に学校の組織を生かすことにより，これまでの学級という枠組みの中で学級担任に任せるという固定した考え方が，教科の特性や児童の発達段階を考えることにより少しずつ和らいできています。そして，多くの教師の創意，発想を生かすことで，一人一人の児童の学びの状況に合わせた学習指導を展開することや多面的な評価が可能となってきています。

今後，このような学習指導の成果を生かすことや，高学年における一部教科担任制を取り入れた学習指導の改善に努めることにより，児童の学力向上に更に取り組んでいかなければならないと考えています。